

令和3年度 防衛大学校入校式  
久保 防衛大学校長式辞

本日、ここに令和3年度防衛大学校入校式が無事に挙行されました。本年度は、本科第69期502名、本科留学生23名、大学院にあたる理工学研究科前期(修士)課程53名、同後期(博士)課程6名、および総合安全保障研究科前期(修士)課程15名、同後期(博士)課程2名、の学生諸君を迎えることができました。

本年も、アジア諸国から数多くの優秀な留学生をお迎えしました。本日、本科に入校するのは、ベトナム及びタイから5名ずつのほか、カンボジア、インドネシア、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、そしてラオスからの23名、および理工学研究科前期課程に3名、同後期課程に2名の諸君であります。寝食を共にする本校での生活は、留学生諸君にとって容易なものではないと想像しますが、これまでほとんどの留学生は立派に卒業されてきました。異なった文化に接触することで、日本人学生も大いに触発されてきました。そして今や、母国に帰って活躍する卒業生の皆さんは、防衛大学校が、そしてわが国が誇る貴重な資産となっています。留学生諸君にも、日本人学生と切磋琢磨しつつ、ぜひ卒業まで頑張っていたきたいと思っています。

あらためて、すべての新入生諸君に対して、本校を代表して、心よりお祝いと歓迎の意を表します。入校、まことにおめでとうございます。

本日の入校式にあたり、中山泰秀副大臣をはじめ多数のご来賓のご臨席を賜りました。ご参列の皆様に対しまして、厚く御礼申し上げます。本来はご家族を中心にもっと多くの方々をお迎えしたかったのですが、感染症対策の一貫として控えさせていただきました。ご理解賜れば幸いです。

4月2日の新入生オリエンテーションの際にも申し上げたことですが、日本の、そして留学生諸君の場合は母国の安全保障のために人生を捧げるという決意をもって本学に入校された皆さんに、心より敬意を表します。ぜひこの崇高にして重要な任務を全うしていただきたいと思います。

これからの4年間、ぜひこれからお話するいくつかのことに留意して頑張っていたいただきたいと思います。

1つは広く学ぶことです。

まずは科学技術について正確な理解をもつことが重要です。日進月歩の世界があります。精神論や空想では国の安全は確保できません。客観的事実、データ、科学的真理に基づいた安全保障を考える必要があります。

しかし、同時に歴史や社会科学も勉強して欲しいと思います。そしてその際には、民主主義の歴史と民主主義の意義についても学んでほしいと思います。

2つ目は自分で考える力をつけよう、ということです。

日本では高校までの勉強はどうしても暗記中心になりがちです。しかし、皆さんがこれから自衛官として、とりわけ幹部自衛官として直面する課題は、暗記では通用しない応用問題ばかりです。

3つ目は本を読もう、ということです。

これは拘束時間がやや多い防大生にはなかなか大変なことかもしれません。しかし卒業後はもっと忙しい生活が待っています。大学にいるときにのみ、読書に沈殿することができます。

4つ目は人間を磨こう、ということです

階級が上がり、部下ができ、命令に従う人の数は増えます。しかし、私としては、諸君に、そのような権限だけに寄りかかるのではなく、それがなくとも人が自ずとついてくるような指導者になることを目指して欲しいと思います。そのためには教養だけではなく、部下を含めて他人の気持ちを理解する力、あるいは怒りの気持ちなど自分の感情を抑える能力も必要です。

さて、まことに遺憾なことながら、近年、日本が直面する安全保障環境は急速に悪化しております。現在、ことによるとわれわれは冷戦終結後の歴史の大きな転換点にいるのかもしれません。そのため、自衛隊が絶えざる自己変革を遂げて行かないと、変化する国際環境に適確に対応できない可能性があることが示唆されています。

菅義偉内閣総理大臣は、先月の本校卒業式訓示において、本年はソ連が崩壊した1991年から30年後であることに触れながら、自衛隊は、国連PKOなどに代表される、1991年当時だれも予測できなかった数々の任務を付与され

たことを指摘されました。総理は、自衛隊はその変化に立派に対応してきたと評価されました。そのうえで菅総理が明確に述べたのは、「将来の変化に的確に対応して欲しいということ」でした。本校としても、万難を排して必要な変革を実施していきたいと考えています。

ただし、今の時点で30年後、40年後に必要とされる自衛隊の業務や任務を適確に予想し、なおかつそれをこのキャンパスで教えるのは、至難の業といつてよいでしょう。学問の基礎は古今東西あまり大きく変わっていないのではないかとも思えます。学生諸君にこの小原台のキャンパスで身につけて欲しいのは、今後直面しうるいかなる現実の変化に対しても、たじろぐことなく正面からぶつかっていく知的な強靱性と意欲・好奇心であり、また変わりゆく現実を柔軟に分析し適確に把握していく知的な基盤・基礎あるいは土台であります。

今から30年後あるいは40年後というのは、まさにみなさんが自衛隊の幹部となって組織をけん引している時であります。その時に、防大時代に教わった基礎や土台が何より有益だったと評価してもらえよう、われわれ教職員も一体となって諸君の成長を支援したいと考えています。

最後になってしまいましたが、防衛大学初代学校長の榎智雄先生が常に力説していたのが、民主主義の時代における自衛隊のあり方を理解すること、とりわけ「民主制度に対する的確な理解」をもつことでありました。言うまでもなく、自衛隊の使命は民主主義のもとで国民に奉仕し、国の独立・平和・安全を守り抜くことにあります。

みなさんには、折に触れて民主主義社会における自衛隊の使命と任務について、深く思いを致す時間ももってもらいたいと願っています。

以上を持ちまして、入校式での学校長式辞とさせていただきます。新入生諸君の入校を心より歓迎します。入校、まことにおめでとうございます。

令和3年4月5日  
防衛大学校長 久保文明